



元気あふれる福島市、 新ステージへ本格始動！

福島市長 木幡 浩こはた ひろし

明

けましておめでとうござ
います。市民の皆さまに
は、希望を胸に新春をお
迎えることと、心よりお慶び申し上
げます。

就任1年目の昨年は、全力で走り
続けた1年でした。東日本大震災お
よび原発事故からもうすぐ8年、い
まだ復興の途上にありますが、市政
は大きく動き始めました。

3月に面的除染が完了し、4月に
は待望の中核市へと移行、懸案の待
機児童数はほぼ半減しました。健康
危機管理の拠点として保健所を設置
し、新しい夜間急病診療所が上町に
移転オープン、地域包括支援セン
ターを全地区に増設し高齢者を支え
る体制も充実しました。

高速道路網が広がる中、合計5件
の企業誘致・立地に成功し、福島大
学食農学類が本年4月開設、県立医
科大学の新学部も起工と、それぞれ
うれしい動きがありました。あと1
年半余りに迫った東京2020大会
では、野球・ソフトボール7試合の
実施と大会全体の先陣となること

決定し、オリンピック・パラリンピ
アンにも多数訪問いただき気運が高
まってきました。

また、中心部のまちづくりに関す
る基本方針をお示しするとともに、
広域的拠点としての役割を果たしつ
つ圏域全体の発展を図るため3県に
またがる福島圏域連携推進協議会を
設立し、風格ある県都に向けた確か
な一歩を踏み出しました。

今こそ、福島市が新ステージへと
飛躍する絶好のチャンスです。本年
は、東北絆まつりが福島市で開催、
半世紀を迎える福島わらじまつりが
新たな変貌を遂げる予定で、中
心部のまちづくりも具体的な検討に
入ります。待機児童問題や防災など
身近な課題にも、目に見える成果を
出していききたいと思えます。「開か
れた市政」「スピードと実行」をモツ
トに、民産学官の力を結集しオー
ル福島で、市政各般にわたって本格
始動させてまいります。

本年が皆さまにとりまして、幸多
き年となるよう心からお祈り申し上
げ、新年のごあいさつといたします。

新

年、明けましておめでと
うございます。市民の皆
さまが、健やかに新年を
迎えられることを心よりお慶び
申し上げます。

昨年は、市議会に対しまして格別
なるご理解とご支援を賜りましたこ
と厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、
福島市は4月1日に中核市へと移行
いたしました。

また、7月に市としては20年ぶり
となる福島おおぞらインター工業
団地の造成に着手し、10月には、震
災の影響や老朽化により建て替えを
進めていたNCVふくしまアリーナ
(福島市体育館・武道場)が完成しま
した。

さらに11月には、新最終処分場が
3年後の供用開始に向けて立子山地
区にて工事着工の運びとなりました。
このように、雇用と産業振興や健
康増進とスポーツ振興、そして市民
生活に直結する施設の整備が進んだ
ところでもあります。

年度内には、山形市とも東北中央
自動車道でつながる予定であり、4
月には、東日本大震災・福島第一原

子力発電所事故からの福島県農業の
再生と復興を目指し、福島大学に「農
学群食農学類」が開設されます。

JR福島駅東口には、現在、福島
県立医科大学の保健科学部棟の建築
工事が進んでおりますが、公共施設
の再編整備と中心市街地将来ビジョ
ンの検討を進め、大規模会議などに
も対応できるコンベンション施設な
どを、民間と連携しながら整備して
ゆく方向性が示されました。

新時代を迎え、福島市に大きな変
革が訪れようとしております。

このような重要な時期に当たり、
二元代表制の一翼を担う市議会とい
たしましては、引き続きこれらの諸
課題に積極的に取り組み、議会基本
条例の基本理念にのっとり、議会改
革を進め、今後も、広く民意を市政
に反映できるよう本市の復興創生と
市勢伸展のため力を尽くしてまいり
ます。

結びとなりますが、今年1年が、
市民の皆さまにとりまして健康で幸
多き年でありませう、心からお祈
り申し上げます、新年のごあいさ
つといたします。



新しい時代の

始まりを迎えて

福島市議会議長

半沢 正典はんざわ まさのり



特集

新年のごあいさつ